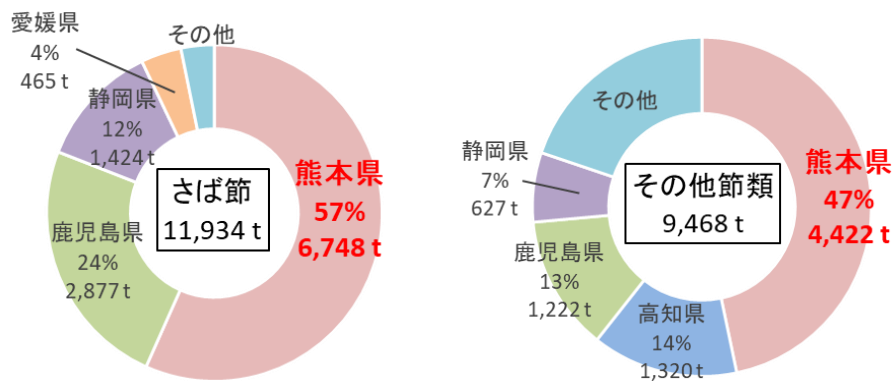


水産資源の現状を知るために

資源研究部 上原 大知

「雑節」生産量日本一の熊本

みなさんは、熊本県における雑節生産量が全国第1位であることをご存知でしょうか。「雑節」とは、カツオ以外の魚を原料として作られる節の総称で、和食には欠かせない「だし」の素になります。令和元年（2019年）の水産加工統計調査によると、熊本県における「さば節」生産量は全国生産量の57%を、うるめ節などの「その他節類」生産量は同じく47%を占めています。主な産地である天草市牛深では、「天草うまみぶし牛深※」という名称でその魅力を発信中です。



令和元年の都道府県別さば節生産量（左）とその他節類生産量（右）

原料となるサバ類やイワシ類は、本県海域では主に中型まき網漁業や棒受網漁業によって漁獲されますが、環境に応じて生き残る量に変化したり、移動や回遊によって分布が変化したりするため、年によって漁獲量が大きく変動することがあります。サバ類やイワシ類に限らず、水産資源を持続的に利用するためには、その水産資源の生態や漁獲状況、海洋環境を把握し、適切な資源管理を行うことが不可欠です。

※令和2年(2020年)11月に商標登録

資源評価調査について

そこで、国は日本周辺水域の水産資源の状況や漁業の状況を把握するために、毎年、魚種・系群ごとに資源評価を行っています。本県も熊本県海域における資源評価対象種（マアジ、マイワシなど合計18魚種、令和2年度現在）の漁獲状況調査や精密測定調査を、国立研究開発法人水産研究・教育機構や他県と連携して実施しています。

資源研究部では、毎月県内の主要な市場に出かけて、マアジ・サバ類・イワシ類などの浮魚類、マダイやヒラメなどの底魚類の体長を測定しています。このうちマアジ・サバ類・イワシ類については、さらに当センターの実験室で体長・体

重を精密に測定し、雌雄判別や生殖腺重量を測定することでより詳細な情報を収集しています。また、県内の主要な漁協から資源評価対象種の月別漁獲量を収集したり、調査船「ひのくに」を使用して、天草灘における水温・塩分の定点観測や卵・仔稚魚の採集調査を実施しています。

これらの調査で得られたデータを用いて、過去から現在までの資源量や漁獲の強さなどを分析し、水産資源や漁業の現状を評価・提示することで、今後の資源管理の目標が設定されていきます。



(左上) 市場調査にてヒラメの測定



(右上) 調査船「ひのくに」による卵・仔稚魚の採集



(右下) 精密測定中のカタクチイワシ

資源評価対象種の拡大

令和2年(2020年)12月1日に施行された改正漁業法では、全ての水産資源について資源評価を行うこととされており、国は資源評価対象種をこれまでの50魚種から令和5年度までに200魚種まで拡大することを目標として掲げています。これに伴い、熊本県ではこれまでの18魚種に加えて、令和3年度から新たに9魚種の調査を開始する予定です。

新たに追加された魚種を調査するにあたり、まずは、漁獲量や操業隻数などの漁業情報を収集していく予定です。漁業関係者の皆様におかれましては、本県水産資源の持続的な利用のために、今後とも調査へのご協力をお願いいたします。